

天台僧成尋の渡宋日記、史料纂集にて登場！
平安時代の僧侶が綴る古代中国・日本の社会の実情とは――

さん て ん だ い ご だ い さ ん き
参天台五臺山記
第一・二

森 公章 校訂
(東洋大学文学部教授)

『参天台五臺山記』とは

天台僧である成尋^{じょうじん}（1013～81）が11世紀後半に宋代中国を訪問した時の日記。天台山・五臺山への巡礼を中心に各地を訪れており、宋代の駅・建物・運河、日々の読経の内容や様々な僧侶との交流、皇帝との面会の様子など、当時の中国社会を語る第一級史料。

〔第一〕2023年4月26日刊行 本体17,600円（本体16,000円＋税）
（A5判・上製・函入・264頁 ISBN978-4-8406-5215-5 C3321 ¥16000E）

〔第二〕2023年6月12日刊行 予価15,400円（本体14,000円＋税）
（A5判・上製・函入・356頁 ISBN978-4-8406-5217-9 C3321 ¥14000E）

【内容】第一には翻刻、第二には読み下し文・解説・年表等を収録。

【収録】延久4年（熙寧5年、1072）3月～同5年6月（各冊）

① 最古の写本である東福寺本を底本とした初めての全文翻刻／読み下し

京都東福寺所蔵の最古の写本（重要文化財、全8巻）は円爾弁円旧蔵の鎌倉時代前期に書写された最善本である。本書ではこの東福寺本を底本とした。豊富な標出と詳細な校訂註／人名・地名註を付した全文翻刻〔第一〕と、それに対応する読み下し文、解説、年表（参記要略）〔第二〕をセットで読むことで、本文の内容により深く迫ることができる。

② 宋代中国の社会・交通・仏教の実態を示す稀有な史料

『参天台五臺山記』は1年以上にわたって宋に滞在した高僧の旅行記である。運河や駅、天台山・五臺山の寺院など、他史料にはみえない貴重な記録が豊富に含まれるため、中国史・仏教史・対外関係史の研究素材として最適である。皇帝の面会記事では日本の歴史を語る場面があるほか、本書では日本の皇族・貴族に関する言及がみられ、日本史研究にも有益である。

八木書店

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8
Tel:03-3291-2961 / Fax:03-3291-6300
pub@books-yagi.co.jp <https://catalogue.books-yagi.co.jp/>

第1には東福寺本の全文翻刻を収録

最善本であり最古の写本である東福寺本を底本とした全文翻刻。各日付には通し番号を付し参照の便宜を図った。詳細な注・標出を付し本文理解の助けとした。

左に掲げているのは宋の皇帝神宗の命を受けた成尋が祈雨を行い、見事雨を降らせ皇帝より賛辞の言葉を得たことを記した場面である。

小雨あるも風のみ吹き雨降らざるため風を誦念
神宗駕御法華壇を禮拜諸僧御送のため橋の南に立つも護摩壇付近に在り参出できず
神宗太保を以て感悦の旨を傳へ聖秀に謝意を述ぶ
大保來り今日より十二日結願とする七日間の龍王法樂の旨を傳ふ

祈乞雨、其後有雨氣、雖小雨下風頻吹不快也、申三點有勅使大保、仰云、雖有雨氣風迅吹、雨不下、可祈止風、若有可入物可奏者、即答奏云、十二天壇中風天坐、可祈止風由、別不可有入物、即誦念風天真言一万遍祈申、西一尅風止雨天下、終夜甚雨、七時行法畢、經七、

374 五日戊雨下、從夜至辰時天下、已一點雨頗宜間、皇帝駕御、諸僧共立間申万歳如常、爲悅燒香於法花壇、燒香禮拜、諸僧前立爲御送立橋南、至成尋等在護摩壇方、依不得路不出、(92)而 皇帝思食已前立由、於橋 御覽、依不參出、止御鞏以大保爲使 宣旨云、雨天下、最爲感悦、召出小師聖秀等同仰此悦由、馳還參畢、聖秀果報不可思議也、數度面見希有、今蒙 仰寔以難量、殿上人々頻以來悅、午時賜珍菓等、諸僧同喫、大保來、宣旨云、從今日延七日可法樂下雨龍王等、十二日可結願也者、從未時雨天下、終夜甚雨、四時法了、依自行即化他、誓止法花法了、

375 (10才) 六日己酉雨天下、已一點行事大保与乳母子大保共來、行事大保以筆六云、此是御波々乳子、爲一會閤梨來也、御乳母爲雨悅爲閤梨儲一齋、而 皇帝被仰云、諸僧會合皆令齋者、閤梨知因緣、答書云、委承因緣、千廻感謝、從今以後可祈禱壽福、乳母子大保入懷中還了、即送大齋種々珍菓物、諸僧飽滿、行事大保云、雨已滿、水出二尺五寸云々、至于今者可止

大齋にて種々珍菓物送られ諸僧飽滿

參天台五臺山記第七 延久五年三月 一九九

參天台五臺山記第二 延久五年三月 一七二
み雨大いに下る、終夜甚だ雨ふる。七時行法畢んぬ。經七。
374 五日戊雨下る。夜より辰の時に至りて大いに下る。已の一点、雨頗る宜しきの間、皇帝駕御す。諸僧共に立つの間、成尋等に至りては護摩壇の方に在れば、路を得ざるに依りて出でず。而して皇帝已に前に立つの由を思し食し、橋において御覽するも、参り出でざるに依りて、御鞏を止めて太保を以て使と爲し、宣旨して云く、「雨大いに下れり、最も感悦と爲す」と。小師聖秀等を召し出して同じく此の悦びの由を仰せば、馳せ還りて参り畢んぬ。聖秀、果報不可思議なり。數度の面見も希有なり。今 仰せを蒙るは寔に以て量り難し。殿上の人々頻りに以て來悦す。午の時、珍菓等を賜る。諸僧も同じく喫せり。太保來りて、宣旨して云く、「今日より七日を延し雨を下らず龍王等を法樂すべし。十二日に結願すべきなり」といへり。未の時より雨大いに下り、終夜甚だ雨ふれり。四時法了んぬ。自行は即ち他を化するに依りて、誓く法花法を止め了んぬ。
375 六日己酉雨大いに下る。已の一点、行事の太保、乳母子の太保と共に來れり。行事の太保、筆を以て書きて云く、「此は、是、御波々乳母子の子にして、閤梨に一合せんが爲に來らるるなり。御乳母、雨の悦びの爲に閤梨の爲に一齋を儲けんとす。而して皇帝仰せられて云く、『諸僧會合して皆齋せしめよ』といへり。閤梨、因縁を知れ」と。答書して云く、「委しく因縁を承りて、千廻感謝せり、今より以後は壽福を祈禱すべし」と。乳母子の太保、懷中に入

云く、「雨已に満てり、水二尺五寸出の由を祈る。申の時より天晴れ畢んぬ。」「護摩并びに龍壇に至りては結願中に結願し畢んぬ。初夜龍壇十二天

第2には翻刻に対応する読み下し文、解説／年表(参記要略)などを収録

正字を原則とする翻刻に対し、読み下し文は常用字体で提供。年表と豊富な図版を活用しつつ、翻刻と読み下し文を併行して読むことで、内容をより深く理解できる。

森 公章校訂／八木書店刊 [第一] 2023年4月26日・[第二] 6月12日刊行
參天台五臺山記 第一・二 [第一： / 第二：] 冊
[第一] ISBN978-4-8406-5215-5 C3321 ¥16000E 定価 17,400円 (本体 16,000円+税)
[第二] ISBN978-4-8406-5217-9 C3321 ¥14000E 定価 15,400円 (本体 14,000円+税)
お名前 (ふりがな) TEL
ご住所 〒 FAX
E-MAIL
取扱店 (番線印)